

# カリキュラムマップ<看護学科>

## 建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

## 建学の精神に基づく教育目的

- 全学の目的...建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。  
看護学科...深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。
- ①一般教養と看護領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
  - ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
  - ③生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。

※ディプロマ・ポリシーの番号はP2の該当番号。

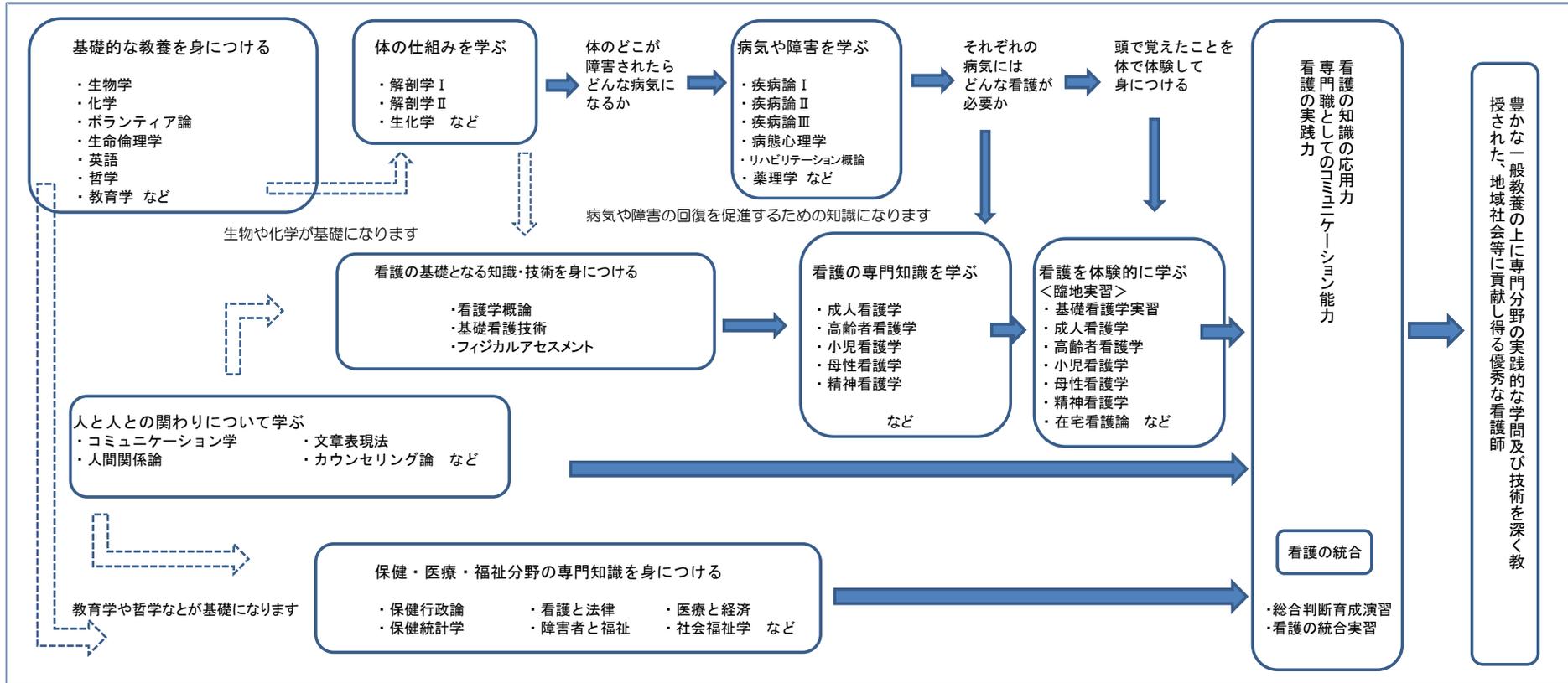
教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	看護学科
社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間						教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得	1(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などを求められる教養を身につける。	2(1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築できる。
	人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学			生命倫理学					
	コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	コミュニケーション学								
	外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
看護の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学						看護の基礎知識・能力の修得	1(2) 学修を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。	2(2) 一般教養と看護領域の専門知識・技術及び実践力を持つ。	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論	病態心理学 カウンセリング論							
	社会の構造と環境		社会福祉学			保健統計学	保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済				
専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)	基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)	基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ (基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展)	成人看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅱ(発展)	精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護活動論Ⅱ(発展)	看護の専門知識・技術の修得	1(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づき学修を通して、人間、医療福祉問題等を科学的・論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。	2(3) 良識、倫理観と責任感を持ち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任を持って職務を実践できる。	
健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護学概論 在宅看護概論	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	成人看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅱ(発展)	精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護活動論Ⅱ(発展)						
安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究		安全管理論				課題研究事前演習 課題研究 災害看護論					
看護の領域ごとに、知識応用力・専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。	専門分野別実習	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)		基礎看護学実習Ⅱ(発展)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) ★成人看護学実習Ⅲ(基礎) ★成人看護学実習Ⅳ(基礎) ★成人看護学実習Ⅴ(基礎)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) ★成人看護学実習Ⅲ(基礎) ★成人看護学実習Ⅳ(基礎) ★成人看護学実習Ⅴ(基礎)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) ★成人看護学実習Ⅲ(基礎) ★成人看護学実習Ⅳ(基礎) ★成人看護学実習Ⅴ(基礎)	看護の知識応用力・専門職コミュニケーション能力・実践力の修得	2(4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。		
総合判断育成演習 看護の統合実習						総合判断育成演習 看護の統合実習					

★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

# 科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

## <看護学科>



## 到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

### <看護学科>

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
教養・倫理・責任感 及びコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の基礎知識・能 力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学 微生物学 疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学 保健統計学 病態心理学 保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済 カウンセリング論	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の専門知識・技 術の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔) 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ(基礎) 成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護学概論 母性看護学概論 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅱ(発展) 安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の知識応用力・ 専門職コミュニケーション能力・実践力 の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(発展) 成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) 成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展) 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。